



僕だって 私だって できるんだ！ 出雲市立湖陵幼稚園(島根県出雲市)

< 5 歳児 >

本園では、毎年5歳児の子どもたちが2学期を迎えると、「運動会でみんなに竹馬を見せたい」という目標をもって、自発的に竹馬に挑戦するようになる。その中で子どもたちは、互いに励まし合い、刺激し合いながら切磋琢磨していく。一人一人の目標や到達度は異なっているが、『頑張ったらできた』という喜びや達成感を味わい、この共通体験によって友達との連帯感が深まっていく。

子どもの姿 T=保育者 C=周囲の子ども	◇保育者の受け止め ◆環境の構成と援助
<p>※2学期が始まるとすぐに、子どもたちは竹馬に挑戦し始める。</p> <p>M児「ねえ、先生、見て～！すごいでしょ」</p> <p>T 「すごいね」</p> <p>※朝の会のお話タイムで自分から話す。</p> <p>S児「今日、竹馬に乗れるようになって嬉しかったよ」 達成感</p> <p>T 「よかったね。どうしたら乗れるようになったの？」</p> <p>S児「初めは乗れなかったけど何回も練習したよ。 根気 足の指に豆もできちゃった」</p> <p>T「がんばり豆ができたんだね。だから乗れるようになったんだ」</p> <p>C 「Sちゃんすごいね」「ずっと練習していたもんね」 認め</p> <p>※R児がテラスに置いてある巧技台を見つける。</p> <p>R児「ねえ、先生、これ使っている？」</p> <p>T 「いいけど、何に使うの？」</p> <p>R児「竹馬コースを作りたい」 挑戦心</p> <p>T 「いいよ。気をつけてね」</p> <p>※竹馬コースが完成する。</p> <p>R児「先生、竹馬コースができたから見て。これお化けコースだよ」</p> <p>T 「何でお化けコースなの？お化けが出てくるの？」</p> <p>R児「違うよ。すごく怖いからお化けコース。こっちの赤いマットは地獄コースだよ。赤いマットは火の海だよ」 アイデア</p> <p>C 「わーおもしろそう やってみていい？」</p> <p>R児「おばけコース 難しいよ やってみていいよ」</p> <p>※今まで竹馬に乗ろうとしなかったN児が、竹馬を手にして、周りの子どもたちの様子を見ている。</p> <p>T 「Nちゃんも竹馬に乗ってみたいくなったの？」</p> <p>N児「うん。違うよ。だって僕怖い！」</p> <p>T 「そうか。でもNちゃんなら絶対に乗れるよ。Sちゃんも、何回も練習したから乗れるようになったって言ってたね」</p> <p>N児「……」 (N児はしばらく考え込んでいたが、自分からS児のところへ行き、支えてもらい4本足の竹馬に挑戦する)</p> <p>N児「みて！乗れるようになったよ。頑張ったらできたよ」 自信</p> <p>「うーん。でも足が痛くなってきた」</p> <p>T 「頑張った証拠だよ！」</p> <p>N児「やったあ！次は2本足に挑戦するよ」</p> <p style="text-align: center;">目的意識、誇り・喜び</p> <p>※自分たちで竹馬コースを工夫したり、竹馬のげたの高さを高くしたりして挑戦していく。 挑戦</p>	<p>◆頑張ったことを認め、満足感が味わえるようにする。</p> <p>◆出来るようになった喜びに共感し、幼児なりにどうしてできるようになったのか、振り返ってみようにかかわる。</p> <p>◆竹馬に乗れるようになるためには、「豆ができる程」何度も練習を重ねたことを認め、周囲の子どもたちにも刺激になるように伝えていく。</p> <p>◆巧技台を子どもの目に付くところ(テラス)に置いておく。</p> <p>◇ただ乗るだけでは物足りなくなり、コースを作って挑戦しようとする意欲に感心する。このR児の姿を見て、周りの子どもたちも刺激を受けている。</p> <p>◇R児ならではのユニークな発想に驚く。遊びがこれまでの体験や知識と結び付くことで、よりおもしろさを増している。</p> <p>◆R児の作ったコースを保育者も挑戦することで、子どもたちの挑戦意欲や競争心をかきたてていく。</p> <p>◆竹馬に抵抗を示す子どもには、無理強いをしないで、きっかけを与えながら自分もやってみようとする姿を支える。</p> <p>◇友達が頑張っている姿に刺激を受け、やってみようとする気持ちがわいてくる。</p> <p>◆繰り返し挑戦するなど、頑張ったことを、具体的な言葉で認めることで、満足感が味わえるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>僕達、先生よりも背が高いよ！</p> </div> <p>◇5歳児の姿に年下の子どもたちが憧れを抱くことで、竹馬が伝統的な遊びとして受け継がれている。</p>
	

考 察

- “運動会”という目標に向かって、“竹馬に乗れるようになりたい”気持ちが挑戦意欲となり、一生懸命取り組む姿がクラスの中に広がっていった。自分なりに練習する姿やコースを作ってチャレンジする姿、高い竹馬に挑戦していく姿など子どもたち一人一人が自分なりのめあてに向かって取り組んでいくことができた。その中で『頑張ればできる』という気持ちを実感し、互いの頑張りを認めたり励ましたりするなど仲間同士の支え合いの姿が育っていった。

みどころ

同じ目標をもち共に挑戦したり、怖い気持ちを乗り越えて繰り返し取り組む思いを共有したりしている姿から、5歳児らしい「科学する心」の育ちが伝わってきます。また、同じ思いで意欲的に取り組む友達や自分なりに具体的な目当てをもてる教材・遊具のある環境により、主体的に困難を乗り越えようとする姿が引き出されています。そうした中で保育者は、自分の力を発揮する子どもたち一人ひとりを見守り、励まし、認めるという大事な役割を担っています。